

特集用・紀行エッセイ

宮崎汎会員が見た世界

映画編・第1話「慕情」の舞台香港

当時香港は英国の植民地であった。こんにち（2021年現在）のような中国本土の締め付けもなく自由でエネルギーに満ち溢れた観光都市であり、そして買い物天国であった。

一方日本は高度経済成長期のただなかにあり、その恩恵に預かった国民は、“金満家日本人”と揶揄されお金を落としてくれる日本人としてもてはやされもした。香港にも日本から多くの買い物ツアー客が訪れ、市内の有名店やホテル、大型の水上レストランなどの客の多くは日本人であった。

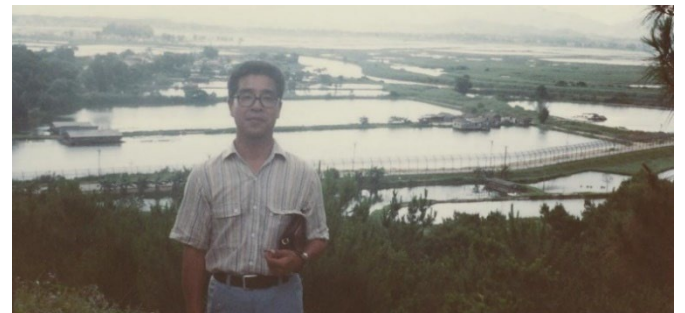
香港は九龍地区、香港島、新界地区の3つの地区に分れていた。九龍地区や香港島の喧噪を逃れ、新界地区に入り車で山あいを走り抜けると中国との国境に出る。高台の展望台から見晴らすと目の下には鉄条網が張り巡らされ、その先には中国人民共和国が見渡せた。日本人のみならずいろいろな国からの見物客で賑わっていた。彼らは一様に当時ベールにつつまれていた未知の国中国人民共和国へ様々な想像を膨らませながらしばし佇んだものである。



有名な不夜城・水上レストラン

九龍地区の目抜き通りネイザンロードは中国本土の物産だけを扱う裕華という人気の大きな店や有名店が軒を接し大変賑わっていた。

香港の観光ツアーには家庭常備薬、万金油という塗り薬（メンソレータムに似たゼリー状の軟膏）で巨万の富を得た胡文虎なる人が、タイガーバームガーデンをつくった。丘の急斜面一杯に勸善懲悪や地獄極楽をテーマにどぎつい極彩色の等身大の人形がならび、見る人々の度肝を抜いた奇抜な展示であった。



香港・中国との国境にあった展望台

香港島の最も高いヴィクトリアピークへはケーブルカーか車で十分足らずでいける。高層建築が立ち並ぶ市内全容を俯瞰できる展望台は大人気でいつも混みあっていた。この他共産国中国から逃れてきた人々が暮らす難民アパート群、さらには狭い湾であるアバディーンには小舟をそのまま住居



水上生活者の小舟アバディーン地区（1978年）

とする水上生活者の舟がびっしり密集していて日本では見ることはできないこうした異国の物珍しい観光コースがいくつも用意されていた。半世紀を経た現在では全て取り壊され整備され当時の面影は全く残っていない。

香港島と九龍地区はヴィクトリア湾を挟んでスターフェリーで頻繁に行き来ができ、バスター

ミナル、駅舎、大型客船が停泊するオーシャンターミナル、マカオへの高速船も出るなど交通の要となっていた。この付近は外国人の観光客も多くいかにも国際都市といった情緒ある雰囲気を醸していた。

日本からやってくる多くの人は、いささか古い映画だが1955年に封切られた「慕情」の物語と香港のイメージを重ね合わせ、そしてセンチメンタルな旋律の主題歌を口ずさんだに違いない。主演のジェニファ・ジョーンズとウィリアム・ホールデンの悲恋を描いた慕情の舞台香港は、混沌とした喧噪の中にありながら、何か物悲しいロマンティックな雰囲気を漂わせ人をやるせない気持ちにさせるところがある。

物語は中国の揺籃期、朝鮮動乱をも織り込んだ展開で、スクリーンから流れる主題歌「Love is a Many Splendored Thing」は心に浸みわたる忘れられない曲であった。



映画の舞台となった病院の入口



二人が泳いだ波静かなレパルスベイ

左の写真は女優ジェニファ・ジョーンズが勤務した病院の玄関口である。この一帯は再開発されたが一部残され入り口を入ると懐かしい慕情のパネルなどが室内に展示されている。



香港は東洋の真珠と称され世界の3大美港のひとつである。波静かなヴィクトリア湾にうつる香港の夜景は“100万ドルの夜景”と称されその美しさは生涯忘れられない風景である。

(1972年～10回訪問)